

# 確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

堺市立若松台小学校  
校長 吉川真一

## 中学校区におけるめざす子ども像 自己を高めようと努力し、自ら学び続ける子

令和6年度 重点目標 若松台学校群として小小と小中の教育活動の連携をすすめ、学校・家庭・地域の協働のもと持続可能な「新たな学校づくり」をめざす。

1. 確かな学びの育成 「主体的・対話的で深い学び」を追求し読解力の育成につとめ、「学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子ども」の育成をめざす。ICTを活用して総合的な学力や情報活用能力を向上させる。
2. 豊かな心の人づくり 校内だけでなく、中学校区の児童のつながりを強め、多様な集団づくりの取り組みを行う。さらに国際理解教育を含む豊かな心を育てる教育を展開し人権尊重の精神を涵養する。食育と眠育を中心に健康教育を充実させ、日々の運動を重視して体力の向上を図る。
3. ゆめをはぐくむ教育の推進（若松台学校群としての新たな学校） 義務教育9年間を見通した学びと育ちを意識した小小、小中の連携を行い、児童に多様な出会いと経験を増やし、つながる心と自他を尊重する心を育む。学校群の教職員が連携し、若松台学校群の児童生徒を育成する。
4. 学校・家庭・地域との協働をめざす 系統的に地域学習を行い探求的な学びを進め、児童に自分たちの町を大切にすることと行動力を育成し、学校、家庭、地域の連携をさらに深め強める。

「確かな学び」の現状  
各種調査の結果より、国語科においては、読書が好きという児童の割合が市平均と比べても増えているが、学習場面での「読むこと」に関する関心が低く、要約する、資料を結び付けて考えるなどに課題がある。また算数においては、問題の解き方や考え方をわかるようにノートに書いている児童が多いが、資料の読み取りに課題を感じている児童が一定数いる。学力の二極化も進んでおり、学習に対する意欲も差がみられる。児童用端末を使つての学習活動は定着してきている。朝学習などで基礎学力定着に向け取組を充実させるとともに、国語科においては、「読解力の育成」に取り組み、資料を用いた説明文の読み取りやノート指導に力を入れる。算数科・社会科でデータを活用した学習を進めていく。

「豊かな心・健やかな体」の現状  
アンケート調査より、全体的には自己肯定感の高い傾向にあるが、さらに醸成していくために、学習についてのペア交流やグループ交流を取り入れる設定や異学年・同学年での交流など他者を意識しつながる仲間づくりを意識した取組を進めていく。また、総合的な学習において自分たちの町を意識した取組を系統的に進めていることから地域との関わりに関心をもつ児童の割合が増えている。体を動かすことが好きな児童も多く、仲良しタイムや休み時間には運動場で元気に遊ぶ姿が多くみられる。道徳教育、国際理解教育を推進していくことを軸として、人とつながりを大切に、多様性を認めあい、人権が尊重されていることを実感できるよう、学校全体で人権教育に取り組む。

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組、★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～11月)	達成状況(年度末)	
								自己評価	学校関係者評価
確かな学び	学びの基礎 力の向上	基礎基本の学力を育成し、学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子どもの育成	●★児童の読解力の育成に努め、「主体的で対話的で深い学び」を追求し、授業改善に取り組む。朝学習や自主学習ノートを活用し家庭での学習習慣の定着を図る、さらに読書活動の充実に取り組む。	教科研修と年3回の研究授業。2年生以上自主学習ノートの活用 読書活動(朝読と図書貸出冊数、アンケート)の変化	ノートと貸出冊数・アンケート	年度末	○ 読解力その他の研修を行い、自主学習も6年生では「けてぶれ学習」として実施して進めています。	○ 自主学習を4年生以上で積極的に取組を進めており、6年生での「けてぶれ学習」を、今後につなぎたい。読書活動については、図書室の活用を含め、途上である。	○ 6年生の「けてぶれ学習」や4年生の自主学コンテストなど、自主的に学習を進める手立てが定着しつつある。また、友だちの取り組みを見ることでお互いに影響を受けながら内容を高めている。中学校に向けていい取り組みになっていると思われる。
	総合的な学力向上	個別最適な学び、協働的な学びを追求し、総合的な学力を身に付けた子どもの育成	●★さまざまな授業の中で学びのコンパスなど探究的な学びを推進し、総合的な学力の向上を進める。学校群内の学校との交流や地域学習等の総合的な学習に取り組む。	公開授業・学習発表の実施 アンケート肯定率や活用力の比較	学力調査・学校アンケート	年度末	○ 学校群としての公開授業3回実施して、探究的な学びの推進をしている。学校群内の児童生徒の交流も進めている。	○ 学校群の日を設定し、連携を進め、本校の「読解力の向上」の取組や、群内の他小で進める「学びのコンパス」「STEAMブック」など探究的な学びも合同研修をすることで取り入れ、総合的な学力向上に努めた。学校群内での兼務教員の取組で複数の教科指導を行い、学級担任の業務軽減に努めた。	○ 学校群内の三小学校の取り組みは合同研修をすることで機会や内容が充実してよい。また、子どもたちの取り組みでは大きなものでは連合運動会の練習や宿泊学習のキャンプファイヤーなど従来では規模的にできなかった取り組みが可能になった。他校の教員や中学校の教員による指導は次の中学校段階へと続く取り組みになっている。
		ICTを活用した学習を進め、情報活用能力を向上させる	●学習者用端末を教科、総合的な学習や家庭学習において活用し、情報モラル・情報活用能力を向上させる。	自校教員、若松台中、上神谷小、茶山台小教員による授業の実施	実施状況・アンケート	年度末	○ 一部担当を変更した教科もあるが、兼務教員による各教科の授業は順調に行っている。	○ ICT活用は年6回の支援と研修で中学年以上の情報活用能力の向上と授業での日常的な活用を進めている。	○ タブレット端末の使い方を見ていると子どもたちへの取り組みが進んでいると感じられる。
豊かな心・健やかな体	生活習慣の確立と 自尊感情の育成	さまざまな体験を通して、人とのつながりや思いを知り、自他ともに大切にすることを育てる	特別の教科道徳の授業を要とし、他の教科等との関連を図りながら道徳教育・人権教育の充実を図る。	道徳の教科書や副読本の効果的な活用と公開授業の実施	アンケート	年度末	△ 本市初等道徳部会の公開研究授業も実施し、道徳教育の推進を図っている。	○ すべての学年で「考える道徳科」の授業に取り組み、いじめの対応も進めている。「友だちを大切だと思う(97%)」と他者への気持ちは理解しているが、「人が困ることをしない(80%)」と行動に結びつかないことや「自分にはよいところがある(77%)」など自己肯定感を育むことには課題が残る。	○ 堺市初等教育研究会の道徳部会での公開授業や、堺市人権教育研究会・東北地区人権教育研究協議会共催のせんぼく研での人権教育の実践報告など、学校や市を超えて普段の取り組みを発表し、研鑽を深める姿勢は評価できる。自己肯定感や行動実践といった課題は学校とともに地域や保護者も取り組んでいきたいと考える。
		健康・安全に関する認識を高める。体力の向上を図る	●食育・防災を含む安全教育を通して、健康で安全な生活ができる力を育てる。	健康や安全にかかわる取組状況。その関係のアンケートの肯定率	アンケート	年度末	○ 「ペロリンレストラン」など食育の推進を計画的に進めている。	○ 食育授業、食育推進イベントが定着し、児童も関心高く取り組んでいる。駆け足、大縄、体育館でのイベントなど体作りの工夫した取組を行っている。	○ 栄養教諭を中心に食育への関心が高く、また定着している様子が見られる。また、体づくりのイベントでは学年を超えた取り組みを行い、運動の得意な子どもが筋肉痛になるほどの運動に取り組んだ。
		行事や屋外での遊び等を通して、体を動かすことの楽しさを体感させ、体育授業に積極的に取り組む児童を育む	「体育授業に積極的に取り組む」アンケート肯定率80%以上	アンケート調査結果	年度末	○ かけ足などのイベントを行い、体力養成に努めている。	○ 必要児童に対し日本語指導を進めるとともに、ミニワールドハッキョなどの取組も行い国際理解教育に取り組んだ。	△ 今後も国際理解教育を進めていってほしい。ミニワールドハッキョは参観授業で行ったので子どもたちへの学びとともに保護者啓発にもつながったと考える。	
独自の課題	豊かさに 違いを	ちがいを認め合い、互いに助け合う態度を育てる	●外国にルーツにある児童を含めすべての児童が様々な国の文化や人々を理解し尊重する心情を育てる国際理解教育を推進する。	国際理解教育の取組の内容と回数、日本語指導の状況。	実践報告 公開授業	年度末	△ 本校を会場に大阪府在日外国人教育研究大会を行った。日本語指導も兼務教員によって進めている。	○ 臨海・連運・連音・にんげん学習交流会・部活動体験・秋見つけ・防災教育・田植え・稲刈りなど多くの交流を行い、教員の連携も進んで、学校群の存在が定着し始めている。	○ 初めは学校群の取り組みを難しいものと感じたが2年目を迎え、形になってきたと思える。1年生から6年生までの様々な取り組みを通して、中学校区としての子どもたちのつながりが生まれていくことや中学校への垣根がなくなっていくことを期待したい。
	若松台学校群 としての取組	若松台学校群として取り組み、児童と教職員がともに輝く学校に	●★学校群での取組を進め、カリキュラムマネジメントを充実させ、児童の交流を意識した教育活動や働き方改革に伴う授業時数の平準化、行事の選択と集中を行い、効果的な教育活動を実施する。	実施状況とアンケート	取組の検証とアンケート	年度末	○ 5年臨海の合同キャンプファイヤー、連運合同練習会を含め多くの取組を行い、学校群のモデル校2年目の取組を順調に進めている。		

校長より(年度末)  
モデル学校群の取組の2年が終わり、若松台中学校区での4校児童・生徒・教職員の連携も進み、一定の成果を見ることができました。若松台小学校としても児童が学ぶことを楽しみ、自ら学ぶ子どもとなるよう、探究的な学び、読解力をにつなげる授業改善、ICTの活用、他校の児童との交流、教職員の他校兼務などさまざまな取組をすすめました。来年度もこれまでの積み重ねを大切に、若松台小学校として若松台学校群としてさらに持続可能な取組を進めていきます。

学校関係者評価者から(年度末)  
1年間の様々な取り組みから、学校の熱意を感じた。特に学校群の取り組みでは4校の教職員の連携が進み、子どもたちの新たな関係が創造されているのを感じる。中学校区で他の小学校とも共に学び、垣根なくスムーズに中学校へと進んでゆけるよう、今後とも取り組みを進めてほしい。